

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

自分を高め、ともに生きる喜びを実感できる境木の子 ～チャレンジアップ！かがやく自分～  
 [知]主体的に考え意欲的に学び続ける力を育てます。  
 [徳]自分を大切にしやさしさと強さをもつ子どもを育てます。  
 [体]心身ともに健康でたくましい体をつくる子どもを育てます。  
 [公]人や地域とのつながりを大切に育てます。  
 [関]様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

<言語能力>  
<自分づくりに関する能力>

具体化した資質・能力

場面に応じて多様な言葉を活用して表現する  
自分の主張を筋道立ててわかりやすく伝える

見通しをもって行動する  
自他を生かしながら取り組む

中期取組目標

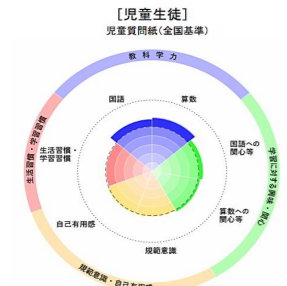
○境木小学校にかかわるすべての人が、ともに生きる喜びを実感できる学校にします。  
 ・教育活動全体を通して「だれもが、安心して、豊かに」生活できる学校づくりを進めます。  
 ・地域とのつながりを生かし、様々な学習の中で、地域の人やものとの関わりながら学ぶ子どもを育てます。  
 ・豊かなコミュニケーションと多くの人との関わり合いを通して、自分に自信をもち、未知の可能性に挑戦していく子どもを育てます。  
 ・自己肯定感を高め、「自分もあなたも大切に思う心」を育てます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
授業改善	○重点研「自らを見つめ、学び続ける子の育成」のための個別最適な学びを目指した授業づくりを進める。 ○身につけさせたい資質・能力を明確にし、学習の基礎・基本の定着を意識した授業づくりを図る。 ○学校と家庭の学習をつなぎ、家庭学習支援の充実を図る。
担当	学力向上部

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力に関わる児童生徒の実態  
令和3年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果から、本校の児童は、学習・生活意識が高く、学力も高い。家庭からの協力も大きいことから、家庭学習もしっかりと積み重ねられている。教職員は、今後も、研修・研究を積み重ね、個に応じたきめ細かな学習指導を継続していく。



(2)これまでの学校の取組状況  
○算数における少人数指導  
中学年を中心に実施してきた。今後も、教職員が児童のつまづきに寄り添い、一人ひとりに目が行き届きやすくなるようにしていく。  
○読書活動の充実  
毎週金曜日は、全校で読書タイムを設定し、保護者による読み聞かせも通して読書活動を充実させてきた。  
○ICT機器を活用した相互学習の充実  
GIGA端末を授業で積極的に取り入れてきた。自分の考えを文章や表、図などで表してまとめたり、オンライン上で教員と児童、児童と児童がお互いの考えを伝え合ったりすることで、それぞれが新しい考え方を獲得するなど、相互学習の充実に取り組んできた。

今年度の目標

個に応じた指導を充実させ、自己肯定感や学ぶ意欲の高まりを目指す

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 「低学年」  
 ・振り返りを大切にし、自分のよさ、相手のよさを実感できるようにする。  
 ・書く活動を充実させ、事象や思いを言葉で表す経験を積むことができるようにする。  
 「中学年」  
 ・人とのかかわりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。  
 ・ICT機器や図書資料の活用に慣れ、課題に応じた情報収集の場を増やす。  
 「高学年」  
 ・自ら問いを見出し、問いを意識することで、子どもが「自分の考えと根拠」を明確にしてから話し合ったり、まとめたりする活動や学習を展開する。  
 ・学習や活動場面で相手意識をもたせ、子どもが自分を取りまく人々、そして社会とのかかわりを感じて、視野を広げながら、将来への意識を高める。  
 「その他、全体を通して」  
 ・誰もが安心して学習に取り組むことができるように、学習環境のユニバーサルデザイン化を進める。

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	○「だれもが」「安心して」「豊かに」生活ができる学校づくり、仲間づくりを図る。 ○障がい者理解や福祉体験を各学年の学習に位置づける。 ○環境教育(SDGs)について、各学年の教科等と関連づけた内容を探る。
担当	安心安全部 道徳教育推進担当

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態  
学力が高く、落ち着いて穏やかに生活している。進んで挨拶ができる子どもも多い。ただ、多くの子どもたちが、相手や状況を理解して、返事や挨拶をしていけるようにはなっていない。また、人とのかかわり合いや相手の気持ちを考えて行動することに、自信をもてていない。  
 (2)これまでの学校の取組状況  
道徳科の授業の在り方を探るために、外部講師を招致し研修を行った。たてわり活動では、6年生を中心に活動計画を立て、自主的に取り組むことができた。たてわりイベントにおいても、子どもたちのアイデアを生かした活動を取り入れることで、自主性を育むことができた。  
Y-Pアセスメントを活用することで、学級経営の見直しを行うことができた。

今年度の目標

自己肯定感を高め、「自分もあなたも大切に思う心」を育てます。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ○「道徳科を要とした学校教育活動全体を通じた道徳教育」を実践するために、道徳科の研修を行い、学年の実態に応じて道徳的価値について自ら考えるきっかけとなるような授業の在り方を探る。  
 ○「集団生活を通して身につける人権感覚」をどの子どもたちにも身につけてもらうために、体験的活動の充実を図る。  
 ・子どもたちがよりよい生活を築くための「話し合い活動」を自主的に行うことができるように、指導を積み重ねる。  
 ・異年齢集団活動(たてわり活動)を自主的に取り組むことができるように、たてわりイベントやたてわりタイムの内容を自分たちで計画をして運営できる力を育てる。  
 ・Y-Pアセスメントを活用した児童の実態把握を通して人権感覚や意識の確認と支援をする。

下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	◎健康関連の学習等を再整備しながら、夏季・冬季休業中も健康カレンダーの活用で、家庭と連携して意識を高める。 ◎どこでもだれでも取り組める境木小オリジナルの運動を行い、体力向上につなげていく。 ◎給食やバランスイ〜ナカードを通して、適切な量でバランスよく栄養を摂ろうとする態度を育てる。
担当	体育部 保健部 食育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態  
基本的な生活習慣が身につけている児童が多い。特に食についての意識が高く、食事を大切だと考えている児童は100%である。また、毎日必ず朝食を食べる割合は97%であり、家庭での食への意識の高さも見られる。睡眠については、10時前までに就寝できている児童が64%で横浜市の平均を超える一方で、学年があがるにつれて0時をこえてから就寝する児童も一部いる。体が疲れていると感じることがある児童が54%おり、睡眠や栄養を十分に取れていない児童がいることがわかる。運動については、94%の児童が楽しいと感じており、運動への積極性がうかがえる。

(2)これまでの学校の取組状況  
食については6年間で適切な量をバランスよく栄養を摂ろうとする態度を育てており、学年ごとに内容の異なるバランスイ〜ナカードを毎月実施したり、学活や体育保健分野、家庭科で栄養教諭がT2として授業に定期的に参画してきた。  
睡眠については、夏休みの健康カレンダーや学校保健委員会、学活を通して、適切な睡眠時間、質の良い睡眠について意識や知識の定着を図ってきた。  
運動については、児童体育委員会を中心に短縄集会を実施して、定期的に運動できる機会を設けている。

今年度の目標

基本的な生活習慣を意識して生活する力を養う

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ・毎年行っている、夏休み、冬休みの健康カレンダーの名前を学校全体で考え、自分事としてとらえられるようにする  
 ・健康カレンダーの内容を、食事面については給食委員会、運動面については体育委員会、睡眠排便その他については保健委員会が内容を考え、学校保健委員会の場でまとめる  
 ・体育委員会では、境木小学校オリジナルの体操や運動を作成し、定期的に行う  
 ・夏休みの健康カレンダーを実施し、長期休業には家庭と連携して意識を高めることができるようにする。実施後、冬休みに向けて反省を行い、改善する。

下半期

・夏休みの反省をいかし、冬休みの健康カレンダーを実施する。  
 ・夏休み冬休みの健康カレンダーについての反省をまとめ、第二回学校保健委員会で行う。  
 ・次年度に向けた健康カレンダーについての計画を立てる。